

令和7年度 北九州市立霧丘小学校 学校経営方針

◇ 学校教育目標とめざす子ども像 ◇

令和7年4月1日
北九州市立霧丘小学校
校長 土田 成夫

◇本校の教育原理

日本国憲法，教育基本法，学校教育法等の精神及び学習指導要領の趣旨に基づいた教育を推進し，生きる力を育み，心豊かな人間性を目指す活動を展開する。

学校教育は生涯学習の基盤づくりであるという認識に立ち，体験的な学習や問題解決的な学習を重視しながら一人一人に確かな学力と自ら学ぶ意欲や態度が身に付くようにする。

北九州市基本構想・基本計画及び北九州市教育大綱に示されている「北九州市こどもまんなか教育プラン」に則った教育を推進する。

◇めざす教師像

※ 子どものことを一番に考え，行動できる教職員集団

- 豊かな人権感覚をもち，子どもに温かい言葉をかける教師
- 子どもとよく遊び，ともに汗を流し，きびきびと行動する教師
- 子どもの力を伸ばすために日々の授業を大切にする教師
- 自分の家庭や家族を大切にする教師



「チーム霧丘」の信頼と結束

- ① お互いを思いやり，明るく元気な職場で，心を一つにして，よりよい仕事をしよう。・ワークライフバランスの充実
- ② 「時を守り，場を清め，礼をつくす」・業務改善
- ③ 一人で抱え込ませない。・働き方改革

○学校教育目標達成のための具体的な方策Ⅰ

- (1) 教職員相互の協働体制のもとで学校の教育力を高める
子どもの育ちを多面的に組織的に支援する協働体制
- (2) 自己実現を目指す豊かな生徒指導の推進
 - ① 共感的な児童理解を基盤に据えた学年・学級経営の充実・・・「学年担任」「近接学年チーム」の推進
 - ② 生徒指導主任を中核にした生徒指導体制を生かした行動連携と，落ち着いた学校生活の生み出し・・・「教師同士がなんでも相談し合える職員室に」
・・・「チーム霧丘」の信頼と結束

◆生徒指導報告
※「ん？」とを感じる教師の直感を大切にしよう。
※まず出欠の確実な把握，報・連・相そして確認
・結果の記録，怠学・不登校の未然防止
※「指導する先生」と「見過ごす先生」がないようにしよう。生徒指導のスタンダード化，同じベクトル
- (3) 豊かな体験を通し，自己の生き方についての考えを深める
道徳教育の充実 ～道徳科の確実な実施～
キャリア教育

温かい思いやりの心をもち，自ら学び，心身ともに健やかな子どもの育成

- 「自分が好き」「友達が好き」「学校が好き」，そして，家族と地域が好き な子ども
- 明るい子(心の花) 温かい思いやりの心をもつ子ども
 - 考える子(学びの花) 自ら学ぶ子ども
 - 丈夫な子(元気の花) 心身ともに健やかな子ども

【めざす子どもの重点】

- すすんであいさつし，あたたかい言葉を使う姿
- すすんで世のため人のために働いたり，だれとでもなかよく遊んだりする姿
- すすんで学び，自分の気持ちや考を相手にわかりやすくまとめたり，伝えたりして，学習や生活の・中で高め合う姿
- ※「自学力」の育成 →家庭学習の取組のシステム化
- すすんで運動し，自分の健康や安全を創り出していこうとする姿

<重点目標>

「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を

(1) 温かい人間関係（教職員集団）の中で教育活動を行う学校

教育活動は，全教職員が課題に対して共通理解を図りながら取り組まなければならない。自分の学級の子もだけでなく，どの子どもにも目を向け，全教職員で見守り自己実現させていく。そのためには，お互いに理解し合い，思いやりのある温かい人間関係の中で，教育活動や研修のできる学校にする。

(2) 一人一人の子どものために働いている学校

子どもは，教師を選べないことを全教職員はしっかり認識し，「子どものために」を第一に考え，一人一人の子どもが充実感や満足感を得られる学校にする。子どもが喜んで登校し，安心・安全に生活し，意欲的に学習することで，基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることのできる学校にする。そのためには，指導すべきことは適切に指導する。一人一人の子どもが，かけがえのない一人の人間として大切にされ，存在感を実感でき，自己実現できる学校にする。

(3) 子どもが「わかる」・「できる」を実感する指導法を求めて，教師が日々研鑽する学校

子どもは「わかる」・「できる」授業を求めている。教師は，子どもの願いを実現していく専門職である。専門職としての自覚と使命感をもち，常に研究と修養に努め，一步一步前進する。教師としての力量を高めることは，子どもや保護者，地域の信頼と期待に応えることである。

(4) 学校の教育目標達成に向け，組織として機能する学校

個々の教師の指導力やモチベーションが十分発揮されるとともに，組織として結集されなければならない。結集点は「学校教育目標」である。心情的な和を基盤として，学校教育目標達成に向かって，研究的かつ生産的な実践のできる学校にする。

(5) 家庭や地域，各関係諸機関との連携・協力を深め，教育効果を高める学校

◇めざす学校像

- (1) 子どもが主役となる明るく楽しい学校
特別支援教育の充実 授業のユニバーサルデザイン化
- (2) 子どもが行き（生き）がいのある学校
規律と思いやりのある学校，学校行事など特別活動の充実
- (3) 確かな信頼で結ばれた学校
子ども相互，子どもと教師，教職員間，学校と保護者地域，小中の連携（霧丘中，足原小）
- (4) 保護者や地域に開かれた学校
安全で安心してすごせる美しい学校 →通わせたい学校に
- (5) 研究・研修を通し教師集団が学び合う学校
「一時間一時間の授業の中に教育のすべてがある」という共通の基盤の上に立ち，「確かな信頼」で結ばれた「活力」ある学校
※ 当たり前前のことを当たり前前にできる子ども
◇ 子どもが「この学校で学びたい！」保護者や地域の人が「この学校に行かせたい！」教職員が「この学校で働きたい！」と思う学校に！

○学校教育目標達成のための具体的な方策Ⅱ

- (4) 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスのとれた学習指導の推進
 - ① 基本的な学習規律の確立・・・学びの基盤となる「根っこの力」を学校全体ではぐくむ。
 - ② 基礎的・基本的な知識技能を習得させるとともにそれを活用して思考力・判断力・表現力を育てる「わかる授業づくり」に取り組む。
- (5) あらゆる教育活動を通した人権教育の推進
 - 配慮の必要な児童について，職員間で共通理解する機会を設定する。関係機関との連携を図る。
 - 教職員の人権感覚を磨く研修を計画的に実施。
- (6) 実践的な指導力を高める特別支援教育・校内研究の推進
 - 主体的で対話的で深い学びの実現のために，相互の授業公開を中核とした **UD の視点に立った**「日常的な授業改善の取組の充実」
○ 特別支援教育の視点に立ち，全ての子に居場所がある人間関係づくりや学級集団づくりの充実を図る。
 - 全員で支える新採研修，若年研修・・・互いに学びあう教師集団，磨きあう教師集団として ボトムアップ型の研修体制の構築。
- (7) 子どもの健康・安全の確保に対する対応策の強化
 - 子どもの生きる力を育む食育の充実 安全・安心な学校給食（アレルギー対応）
 - 保護者・地域と連携した健康・安全指導
 - 緊急連絡メールシステムの運用と活用
- (8) 保護者・地域・関係機関との連携 積極的な情報発信
 - 学校だより 学校 HP 学年通信 地域の会合等
- (9) 潤いとやすらぎのある教育環境づくりの推進
～ごみひとつに心を配れる子どもに～